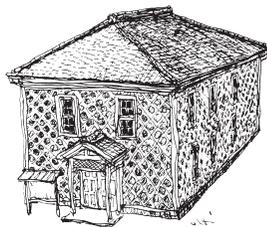


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、ディベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。

●国際センター所長

ともおか
友岡

すすむ
賛

設立50周年を迎えた国際センター

1964年に設立された国際センターは、したがって、今年、設立50周年を迎えました。

国際センター設立の意義については今から30年前の設立20周年に際して当時の石川忠雄塾長が次のように記しています。「今日の国際化時代の到来に先んじて、国際交流の諸領域にわたる業務を統一的に所管する、当時としては全く新しい機構を『国際センター』の名の下に発足させたことは、今にして思えば先見の明による快挙であった。特にそれが、今日多くの大学において同様の組織が成立する先駆けとなったという事実を考えれば、一義塾のみならずわが国の大学国際化の歴史においても、画期的な出来事として記憶されるに足るものであろう」

30年も前に既に「国際化時代の到来」とされていることがなかなか興味深く思われますが、それはさておき、「先駆け」として50年の歴史を有し、「海外との学術文化の交流に必要な教育、調査、研究およびこれに付随する業務を行うことを目的とする」（国際センター規程第3条）とされる国際センターは現在、①海外の大学等との学生交換プログラムの運営、②英語による

国際センター講座の運営、③夏季・春季の短期海外研修プログラムの企画・運営をはじめ、実に多岐にわたる仕事を手掛け、また、ここにいたる50年間、むろん、質はこれを担保しつつ、国際交流の量的な拡大にも力を入れてきました。例えば主要業務の一つである全学的な学生交換プログラムの運営については、現存のこの手のプログラムの最古参は1972年開始のウェスタンミシガン大学とのプログラムで、これに1975年開始のジョージタウン大学、そしてメリーランド大学とのプログラムが続きますが、現在は世界中の約110の大学等と全学的な学生交換を実施しています。

グローバル人材育成の必要性が叫ばれるなか、しかし、世間では近頃の若者の内向き志向が云々され、海外留学希望者数の伸び悩みが問題視されていますが、この慶應義塾においては決してそういうことはありません。事実、学生交換プログラム等への参加を希望する塾生は以前からすこぶる多く、しかも、右肩上がりに増え続けています。国際センターは今後もそうした塾生の「外向き志向」の支援に力を尽くしてゆきます。